



気持ちよく 年度末をしめくくろく

文 | toshi
イラスト | 秋野 純子

いよいよ年度末が近づいてきましたね。教職一年目をふり返り、感慨はいかがでしょうか。なにはともあれまずは、新米先生のこの一年間のご奮闘をたたえたいと思います。慣れないことやわからないことが多く、緊張の毎日だったことでしょう。そんななかでも子どもたちと信頼関係が結ばれ、充実した思いの新米先生も多くいらつしやることと思えます。

さて、一年間のしめくくりに当たるこの時期には、年度末特有の仕事や配慮すべき点があります。今回はそれを学級経営、学級事務の両面からみていきたいと思えます。

新米先生は、三月で子どもを手放さなければなりません。その後、その子どもたちを受け持つことになるのは、当然みんな先輩教員です。その先生方から子どもたちが、「前のクラスで何を教えてもらってきたの。あれもできない、これもできないじゃない」などと言われるのではないかと。そうした不安がむくむくとわき起こってしまったのです。

しかし、いうまでもなくこれは逆効果でした。急に怒られることが増えた子どもたちは落ち着きをなくしてしまいました。その様子を見て、むしろ今のほうが先輩教員から何か言われそうだと感じた新米先生は、私の助言もあって、いたく反省したようでした。その結果、子どもたちは元の落ち着きを取り戻したのです。

○**落ち着いた心を忘れずに**

まず学級経営ですが、初任者指導をしていて、不可解な思いになったことがあ

不安なこともあるでしょう。しかし、心の平静さをなくしてしまっただけではありません。元も子もなくなってしまうことのないよう気をつけたいものです。

子どもと動き回れる。子どもと感覚がびったり合う。

それは子どもたちにとって最大の魅力。

「さあ！その若さという武器を最大限発揮しよう」

toshi 先生から新米先生へのエールです。

< toshi 先生プロフィール >

子どもたちと存分に遊んだ新任時代。日々子どもたちの思考の筋道を大切に、授業で子どもをどう生かすかを考える一方で、学級経営や児童理解のあり方に頭を悩ませた修行時代。子ども第一の学校経営を考えてきた校長時代。35年の教員生活を経て、現在は小学校の初任者指導にあたっている。「ある退職校長の想い」「小学校初任者のホームページ」でブログを執筆中。

○別れは惜しいけれど…

もうひとつ、別な思いになることもあるようです。一年間共に過ごした子どもたちとは、別れがたい心境になる新米先生もいるようです。教職に就いて最初に出会った子どもへの惜別の情は、格別なものがあるのでしょうか。

しかしその感情は断ち切らなければなりません。なぜなら新米先生のその感情は子どもにも伝染して、新しい先生になかなかなじめなくなってしまうこともあるからです。そうならないよう、子どもたちには、「新しいクラスで、もし給食当番や掃除のやり方が違ってても、『そうではないよ。こうやるのだよ』などと言わないで、新しい先生のやり方に早くなれることが大切です。新しい先生はどんなやり方をするのか、楽しみにしています。『うね』などと話しておきたいものです。

○教室の片づけは計画的に

教室も当然あけ渡すこととなりますね。教室の整理整頓、片づけはもとより、掲示物の撤去など、早め早めにやっておきましょう。また、諸係から教室備品のチェックや片づけ方などを指示されることがありますから、それらをしっかりとこなすことも大切です。

子どもたちの学用品、作品などもすべて持ち帰らせなければなりません。これも予定通りいかないことが起きがちです。から、早め早めに計画的に持ち帰らせることが大切です。

○成績・要録記入も「早め」が肝心

次に年度末の大仕事である成績つけについてですが、新米先生のなかには、成績つけにもものすごく時間をかけてしまう人がいます。責任の重さに耐えかね、迷い続けるのでしょうか。なかなか決断できません。また、自分の思いに自信がもてないで悩んでしまう人もいます。その結果、期限が過ぎても提出できず、管理職や先輩教員に迷惑をかけてしまう新米先生もいました。

どうかそうならないよう、早めに準備することが肝要です。また、成績つけはその時になって取り組むようなものではないです。日ごろからテストや成績物のチェックはもちろんですが、気づいた所見などはメモしておくといいたほうがいい。

また、通知表を渡した後で保護者から問い合わせやクレームがあっても自信をもって答えることができるように、資料をしっかりと持っておくことも大切です。少なくともあいまいさが残らないようにしなければなりません。



年度末は指導要録をつける時期でもありますね。通知表の作成の仕方は学校によって様々ですが、この要録のほうは、どのように作成するかが国によって厳密に定められています。記入の手引きがあるはずですから、それに従って作成する必要があります。通知表がまだ手元にある時から記入したいものです。

こうした仕事の数々に追われているうちに、あわただしく新年度を迎えてしまうものです。多忙な時期ではありますが、心にゆとりをもって新年度の新しい子どもとの出会いを迎えましょう。